八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校新聞部
芸術鑑賞号

迷うことなく役者を続けてきた

５月19日（金）中間考査終了後、昨年に続き近江八幡市文化会館で芸術鑑賞が行われた。今回は、劇団芸優座によるベニスの商人の公演。講演後、劇団員の西田廉義さん（シャイロック役）と亜槍奈美さん（ポーシャ役）に取材させて頂いた。

Q. 劇中で自分の演技に満足のいっているシーンは？

A. 西田さん：裁判シーンで肉を採れるとなったところのストップモーションがかかるところ。あそこのシーンで作品としては、崩れてしまうが僕のやっているシャイロックとしてはそこに持っていくために、本気で"採るぞ"という意気で演技をした。

亜槍さん：やはりシャイロックと対峙した時にシャイロックが振り回した時に「待て」と止めて逆転裁判をする時が一番気持ちがいい。

Q. ドラマや映画に無く演劇にしかない良さとは？

A. 西田さん：ドラマや映画は、既に撮った物なのであまりお客さんを意識せずに芝居してると思いますが，我々のような演劇はアドリブというものが一切なく稽古でした事以外ををしてはならないのですが，お客さんが台詞に反応されると「笑い待ち」をしてお客さんの反応を待ってお客さんとともに作り上げていくのが演劇の特徴だと思う。

亜槍さん：やはり，ライブ感が他の映画やドラマとは一番違う所でもあり醍醐味。私たちもお客さんの反応を見ながら自分の役を作っていくのがお芝居の良いところだと思う。

Q. もし原作者であるシェイクスピアと話せるのならどんなことを話してみたい？

A. 西田さん：話すというよりも、本当にいたのか。是非実際に会ってみたい。いろんな作品を一人で書いたとは思えないという説があるので。もし本当にいるのならばいつ書いたのかなど何でも聞いてみたい。

亜槍さん：本当に全部書いたのか聞いてみたい。私は、100の心を持つと言われているシェイクスピアと７つの声を持つと言われているクイーンに会ってみたい。

お疲れのところありがとうございました（山）

↑バックヤードでの取材の様子

誰もが息をのんだ法廷での出来事

今にも切りかかりそうなシャイロック↑

裁判所でのシーンで無慈悲なシャイロック（高利貸し）によって証文通り胸の肉一ポンドを今にも取られようとしていたアントーニオ（貿易商人）。

しかし、博士に扮したポーシャ姫の巧みな弁舌よってそれは阻止された。証文には血に関しての記載がなく、肉をとる際に血を流してしまえば殺人未遂になってしまい財産を没収されてしまうのだ。証文通りに実行できないシャイロックは仕方なく3000ダカットの倍の額を返せば許すと言ったが、それも阻止されてしまうのだ。なぜなら、一度金の受け取りを拒否してしまっていたからである。金を取り返すこともできず最終的には財産の半分を失ってしまうシャイロックだった。

私は最高潮だったシャイロックが、みるみるうちに青くしおれていく様にあっと驚く他なかった。（蔀）

バサーニオとグラシアーノの対比

ポーシャ姫と結婚したバサーニオ（アントーニオの友人）とネリッサ（ポーシャ姫の家政婦）と結婚したグラシアーノ（同じく二人の友人）。

双方立場は違うが境遇が似ており、バサーニオは慎重に事が進む中でグラシアーノはコミカルに事が進んでいくのだ。同じような状況でも全く違う方向性に進んでいく彼らは一層面白さを際立たせていた。（蔀）

色濃く映された時代背景

作中では宗教やユダヤ人などの状勢を現した要素が深く絡んでおり、この作品が作られた時代風景がよく分かるとともに、時代が異なる我々には通じない面白さがあったのではないかと思った。特にユダヤ人として虐げられながら、最後まで良い扱いを受けなかったシャイロックについて考えなかった者はいないだろう。（蔀）

八工生へのメッセージ

もし、八工生のなかに演劇や芝居に興味がある人がいるのであれば、ぜひとも来てもらいたい。この劇団の中にも高校時代に芸術鑑賞で我々の作品を見て、来たという人もいます。この劇団は今年で創立４７年ですが、若い人が来てくれると次の世代に語り継いでいける。今日の演劇を見てなど、何がきっかけでも良いので、お芝居をやってみたいと思ったら、高校を卒業してからになりますが、いつでも門を叩きに来てください。（椰）

花束を受け取る西田さん←